

チャレクジ

NO.39 2017.5



発行者 特定非営利活動法人 チャレンジド ステーション クジラ
196-0003 東京都昭島市松原町3-6-7 アートヒルズ105
法人:TEL/FAX042-542-7288 事業所:TEL/FAX042-569-6433
Email npo-kujira@9jira.com URL <http://www.9jira.com>

新年度がスタートしました……

新緑、風薫る、五月晴れ、青葉繁れる・・・5月にはさわやかな書き出しが似合います。

この3月に学校を卒業された新規登録者13名を含め、157名の登録者で平成29年度がさわやかにスタートしました。ご存知のようにクジラは1年ごとの更新制を取らせていただいています。これは、現状と今後の支援を確認し、あらたな1年を共に歩むためです。当然、転居や働き方を変更された方は継続されません。お一人お一人の考え方や生き方があり、その経過の中でクジラを活用していただきたいと思っています。

4月から新入社員となられた方々は連休も終わり、そろそろ疲れが出る頃でしょうか。既に社会人となられた方々も期待されることも多く、日々奮闘されていることでしょう。クジラのモットーは丁寧な支援です。LINEやSNS、メールにもタイムリーな対応を心がけています。

皆さん、健康で実りの多い1年であることを心から願っています。（センタ長 市村たづ子）



恒例のお花見会……4月8日(土曜日)

今年は例年になく、早い桜の開花宣言があったものの寒暖の差が大きく、脚踏み状態が続きました。残念ながら、当日は朝から小雨模様。保健福祉センター（あいぽっく）での初実施。

その1 お楽しみのお弁当

みんなで、お茶で乾杯

『おつかれさま～。また今年度、頑張ろう！』



その2 10円ゲーム

じゃんけんで勝った方が負けた人から10円ゲット！優勝者の一人はこの4月入社の新人。先輩からのお祝いかな？

パレコラム 34号



株式会社イサゴ流通サービスの滝沢知之次長様にご寄稿いただきました。

弊社は、平成2年創業の運送業・倉庫業を展開する埼玉県入間市に本社・事業所を構える、従業員約150人の会社です。自分は、学生時代のアルバイトを経て、平成19年から次長としてトラックや人員の管理・発注の業務を担当しています。

K君との出会いは平成23年、東京都立あきる野学園の3年生だった1月でした。先生とお母さんと一緒に面接に来られたのですが、知的障害の方は初めてだったので正直、できるかどうか不安でした。

K君の職場は入間アウトレットパーク近くで、昭島市の自宅からの通勤はとても大変でしたが、2週間の実習中、一度も遅刻することもなく通勤しました。その真面目さは7年目の現在でも変わりません。なんと大雪でも台風の時でも、羽村駅から長い時間かけて歩いて来るのです。

また、K君は、番重洗浄の仕事をセンター長と一緒に黙々と「終わり！」と言われるまで続けるほど、仕事にも一生懸命に取り組んでくれました。もともと人と話をすることが極端に苦手で、挨拶もK君からはしてくれません。自分にもようやく頷いてくれるようになったほどです。多少不愛想ですが、仕事を真面目に休まずきちんとこなす、そのままのK君でいいと思いました。

今年の1月、会社の都合で、K君の職場であるセンターが閉鎖することになりました。他の部署でできる仕事を見つけることが難しく、近隣の会社にK君を雇ってくれるように声をかけました。何とか、仕事を続けてほしいと考えたからです。それも難しく、お母さんとクジラの市村さんと今後の相談をしていた時に、意外にも漢字が得意なことがわかり、センターに隣接する倉庫でのピッキングの仕事にチャレンジすることに決まりました。

センター長と一緒に異動でしたが、全く新しい仕事であること、何より仲間とのコミュニケーションがどうしても必要な部署であり、当然のことながら、かなり苦労しました。それでも、3か月後にはチルド食品のピッキングは伝票を見てミスなくできるようになりましたし、外清掃は誰よりも真面目に取り組んでいます。勿論、話はしませんが、必要な時は指で質問や確認してくれるので、安心です。

自分は今の会社の前に、8年ほどバスの運転手の経験があります。その時に障害を持っている方と保護者の方を見学先にお連れした経験が何度かあります。その当時、保護者のお母さん方がとても明るく仲が良くて、そして強さを感じたことを覚えています。

K君と共に歩んできて実感することは、K君は、会社にとって大事な存在であり、社員として受け入れたからには、これからもずっと応援してあげたいと思っています。同時に、クジラさんのように障害を持っている方を支援する方達も応援したいと思っています。



コラムによせて・・・・



通勤が大変なことをお母さんが相談された時、滝沢さんはKさんの最寄り駅近くまで往復しているトラックに同乗することを提案しました。しかし、Kさんが乗車したのは1回だけで、いつもの通勤ルートに戻しました。お母さんや他の人が思っているほど、大変ではなく、通勤も仕事の一部だったのでしょう。また、センターの閉鎖に伴う話し合いで滝沢さんから隣接の倉庫への異動を提案された時、退職もやむなしとあきらめていたお母さんはとても喜ばれました。“できる事はやってみる”“あきらめない”それをあらためて教えられました。何より、よき理解者と出会えたことに今回も感謝です。

加納正 障害者雇用の見聞録

1, 2, 3 で 6 (足し算?掛け算?どっち ※今号のクイズです) ノウフク連携

長時間労働の規制で過労死ラインでの攻防、過酷な運送業の現場で働く労働者などの報道もあり、「働き方改革」「一億総活躍社会の実現」などと「働く」ことが議論になっています。

今日の日本では、多くの人が教育を受けた後、仕事に就くことにより、社会参加、自己実現、経済的自立を果たしますが、多くは、雇用される雇用関係です。労働市場と産業構造で規定されます。昔、社会科の時間で産業は、一次産業(農林水産業)、二次産業(製造業)、三次産業(サービス業など)位でしたが、情報社会の発達で、3.5次産業とか四次産業とも言われ、現在は六次産業までに。一次産業(農林水産業)で生産したものを、二次産業(製造業)で加工し、三次産業(輸入、販売、サービス業)まで一貫して「業」として、産業が並列で六次産業としているだけではなく、地域振興、雇用の拡大などいろいろな波及効果が生じます。

農福連携と称し、農業の高齢化した就労人口、放置された農地など農業の現状対策と障害者の就労の拡大の課題が、農業と障害者就労のマッチングとして、行政、地方自治体、企業、障害者支援施設などで取組みがされています。新緑の時期、農福連携の現場にご案内いたします。

※紙面の制限で、詳細は各取組はネットで検索してください。このテーマは今後も報告予定です。

「なにもしない」……横浜で。2016 9 30

Sさんから、「面白しそうな取組をしている障害者福祉サービス事業所が」と見学に誘われ、横浜にある「ファールニエンテ」行ってきました。イタリア語で「なにもしない」ということを意味し、「ただ、そこに居るだけで満ち足りる、優雅な時間を過ごす」との意味する言葉から、「誰もがお互い認め、そこにただいることのできる空間を目指そう」との意思が込められ、畑とガーデンには、緑地面積 480 m²の中に約 100 種、400 本以上の樹木が植えられています。畑では小麦、ハーブ、じゃがいも、人参、トマトなどレストランで使う野菜を生産しています。

障害者福祉サービス事業所としての「ファール ニエンテ」は、障害のある人と雇用契約を結び、パンの製造販売、ピザとパスタを中心としたイタリアンの提供を行う就労継続A型事業(定員 14 名)、農業とガーデン管理の仕事を行う就労継続B型事業(定員 20 名)、パン屋さんやレストラン、農業への就労を目指す就労移行支援事業(定員 6 名)の三事業を行っています。パンの製造過程や農作業、ガーデン管理を見学し、レストランでピザをいただきました。

オープンキッチンで、見るからに自閉症の青年が、ぶつぶつ言いながら、自家製小麦粉を使って生地を作り、ピザを焼いていました。テーブルに運ばれたピザを一口食べたら「うまい」。今までの 66 年間の人生で食べたピザの中でも最高ランク。(そんじよ、そこらの店と比べようがないくらい美味しいなんでも、彼が店一番のピザ職人とか。帰りに、彼に「ピザ美味しかったです」とお礼を言ったのですが、彼は目を合わせず、ドヤ顔でした。でもアスペの私は、彼の満足そうな顔が判り、ガーデンの緑に、なにもしない、満ち足りた気持ちにさせていただきました。



関西で秋から冬へ…農業のリスク回避 ショクレポ

昨年の夏過ぎから、月に1回程度、関西の企業にコンサル等で出かける機会をいただき、そこでも農業との出会いが…。N交通は、N県下を網羅するバス会社です。事業の多角経営を目指し、自社所有の空きビル有効活用として、ビルの空き室(39坪)で水耕栽培を行っています。栽培は「大和まな」(大和国特産?)レタス系などで、一日の生産量は約二百株、これを直営レストランや生協に卸しています。注文が多く生産が間に合わず、ハウスを建てて拡大していくことにしています。

農業はリスク(天候、病気、販路の確保)との闘いと言われますが、室内の水耕栽培、直営店での販路で安心、安全の野菜が供給されます。さらに、今後障害者雇用の場として拡大方向です。

大阪職業指導センターでは古く(約25年前)から、水耕栽培を通じて知的障害者の職業訓練を行っています。25年ぶりに訪問させていただきましたが、設備は以前のままで(現在はLED電気や水のコンピューター制御が主)、ベビーリーフを栽培出荷しています。「手で摘むと鮮度が落ちるので、訓練の一環としてハサミで摘む」、計量、殺菌、袋詰めの作業を通じての訓練を実施しています。お土産に2袋いただき帰京、2週間位我が家に食卓に上り、鮮度が落ちなく美味しくいただきました。(食レポ?職レポでした。)

北の国から ハレルルルル♪ 冬 メムロ 芽室町

メムロとは、アイヌ語の「メム・オム」が転化し芽室となったとか。北海道の日高山脈の東に位置する農地42%、森林40%の地域です。イベントが開催され、宮西町長の話を聞く機会がありました。また、パフォーマンスでは、知的障害者の芋の皮むきの速い事に、びっくり。

町長が教育長の時に関わった発達障害者の支援に端を発し、「農業」「食品の一次加工」「飲食業」「ホテル業」「一般企業就労」と知的障害者や発達障害者が働く場所を創設、展開されており、「私たちは働いて生きていく」とのスローガンの下、「就労キャリア教育観光事業」では、働き、生活している場や豊かな自然をセットに観光事業も展開しています。何次産業にナルノダ。

関東でも

埼玉福興株式会社の新井代表と旧知の中で春先、無理を言って、訪問をさせていただきました。水耕栽培600坪、野菜苗・花弁400坪、圃場3.7ha、オリーブ2ha…。

ここには、高齢者、障害者、犯罪を犯した人、シングルマザーなど労働市場で不利な立場の人たちの雇用を企業・農業と地域、行政、福祉と連携して創り、消費者であるお客様の支援もいただき、共に人生を歩む環境とシステムを創造しています。訪問の時、オリーブ畑に山羊が草を食み、精神的な安らぎを感じ、何か自分が自然の中に生かされていることを実感できました。

株式会社いなげやウイングの、石川部長に無理を言ってアグリ(菌床しいたけ栽培)事業の栽培工程と製品化工程を見学させていただきました。当日は高橋社長から直接、ご苦労もお聞きしながら説明をいただき勉強になったうえ、このシイタケを納品している近くのお蕎麦屋さんで、肉厚シイタケの天ぷらと蕎麦をごちそうになってしまいました。(食レポとちがいまっせ)

3月24日 霞が関 農林水産省講堂で 「農福連携推進フォーラム」開催

農林水産省、厚生労働省や全国でノウフクを実践している方々が

参加、情報交換等されました。





私の勤務先は、三鷹にある学校法人 杏林学園です。職場は杏林大学病院と同じ敷地にある人事部で働いています。東京都立青峰学園を卒業したばかりの1年目は“採用関係”的担当で、病院に応募された看護師の受付や病院で働いている医師・看護師の個人情報の管理をしていました。その当時は仕事の内容が理解できなくて注意を受け、この仕事は自分には向いていないではと落ち込むことが多くありました。

2年目には上司と相談して“厚生”に異動になり、医師や看護師の健康診断の物品の注文、検診データの入力・結果の印刷や発送準備等の仕事をしました。時間で様々な仕事をするのも自分にはあつてていると思いました。昨年、10月の女子事務服の投票にもかかわり、7年ぶりに新しい制服になりました。現在は新しくできた“三鷹保健センター”で医師や看護師の予防接種用のワクチンや注射器のセットの仕事もして、2つの部署を曜日で担当しています。注意されることもなくなり、先輩に色々な仕事をさせてもらえて嬉しいです。

私には、まだできていないことがあります。それは、時々仕事を休んでしまうことです。朝、頭痛や腹痛で休んだり、休日にイベントに出かけて風邪をひいて休んでしまったこともあります。自分で健康管理が上手くできていないと反省しています。“採用”の時は休むと仕事がどんどんたまって上司に手伝ってもらうこともありました。

学んだこともあります。それはお金の大変さです。UFO キャッチャーやネイルアート、アイドルのコンサート観戦等、あまり考えずに好きなことや楽しいことにお金を使っていましたが、お金は使うと当たり前ですがなくなります。毎日、働いてもらう大事な給料なので、大事に使うことにしました。今は、お弁当を作り持っています。健康にも良いと思っています。

部署は違いますが、後輩が2名働いています。先輩としても頑張らないといけないと思っています。社会人になって6年。体調不良でのお休みをなくし、職場の人に信用してもらえるようになりたいです。

仕事も楽しくなってきたので、将来、結婚してこのまますっとここで働きたいです。・・・夢です。



コラムによせて・・・・

本間さんは、在学中も体調不良で欠席することがありました。先生の「無理しなくていい」という言葉に安心していたようで、就職後2~3年間は有休を使い切っても足りないほどでした。病気やけがなら通常の業務ができないため欠勤は当然ですが、頭痛や腹痛、だるさとなるとその人個人の判断になってしまいます。“無理はしない”と社会人（仕事）としての責任、気持ちの問題？難しいところです。

実は、本間さんは、原稿と一緒に考える前々日に親知らずを抜歯し、腫れと痛みのある中でもクジラに来てくださいました。“しめきりに間に合わなくなる。皆が原稿を楽しみにしている”という私の言葉に後押しされて。期待されている自分を意識したことで少し弱かった心が強くなれた瞬間のように感じました。

きっと、もう大丈夫！大事な有休は楽しいことにとっておきましょう。



トピックス

その1 今年は2人でやります！昭島市役所実習

昨年、初めて取り組んだ市役所実習ですが、今年は発展形として2名で実施します。昨年同様、都立青峰学園と都立あきる野学園の2年生コンビです。第1回目の担当者会議を経て、庁内での受け入れ部署と仕事の切り出しを行っていきますが、職員向けに「障害を理由とする差別の禁止や合理的配慮」に関する研修を実施した成果が活かされ、より多くの部署が受け入れてくださることを大いに期待しております。ちなみに昨年の実習生のSさんは、市役所実習の経験を企業へのアピールポイントとして就職活動に活かしています。実施して終わりではなく、如何に次に活かすかが大事と考えます。市役所実習も次年度以降、更なる発展を期待します。

その2 お花見会こぼれ話

- ①クジラが開所して15年。さて、利用者さんは何年勤めているのでしょうか？今回は室内ということもあり、ゲーム前に参加された39名の方に聞いてみました。新入社員から始まり、2年目、3年目と続き、いよいよ10年目、11年目。最高は勤続14年。長年の努力と頑張りに拍手を送りました。健康に留意してこれからも頑張ってください。
- ②参加者の中には現在就職活動中の方もいます。勤続年数を聞いている間、嫌な思いをしていましたと申し訳なく思っていたのですが、帰りがけに『私も就活頑張って、絶対就職します』と笑顔で言ってくださいました。あなたなら大丈夫。あらためて、利用者の方々のために頑張らないといけないと決意を新たにした会でもありました。（文責 市村）

ナイトサポートとホリデーサポートのお知らせ

会社の帰りや休日に気軽に相談できる「ナイトサポートとホリデーサポート」を行っております。予約制ですので必ず電話で予約をしてからご来所下さい。
(TEL 042-569-6433まで)



ナイトサポート 第2金曜（17:15～21:00）	ホリデーサポート 第3日曜（10:00～16:00）
6月9日 金曜日	6月18日 日曜日
7月14日 金曜日	7月16日 日曜日
8月のホリデーサポート・ナイトサポートはありません	
9月8日 金曜日	9月17日 日曜日
10月13日 金曜日	10月15日 日曜日

NPO 法人 チャレンジドステーションクジラ 賛助会について

日頃より、NPO 法人 チャレンジドステーションクジラの賛助会へのご協力を有難うございます。今後も一層の努力をして参りますので、よろしくお願ひ致します。

☆賛助会は随時受け付けております。

年 会 費：1口 2,000円

連 絡 先：042(542)7288

振 込 先：青梅信用金庫昭島支店

普 通 口 座：店番 015 口座番号 0711599

特定非営利活動法人 チャレンジド ステーション クジラ
理事 東條 芳男

これまでご協力いただいた方

- ・砥柄敬三 様
- ・原田 修 様
- ・桑島美紀 様
- ・真田興六 様
- ・三浦裕太 様
- ・荒井 浩 様
- ・加藤 保 様
- ・小堀昭次 様
- ・志賀 優 様
- ・安藤輝夫 様
- ・根本俊一 様
- ・稻村 栄 様
- ・根本奈美恵 様
- ・指田金作 様
- ・前岡秀信 様
- ・中村広司 様
- ・松浦浩司 様
- ・峰尾重夫 様
- ・宮田直樹 様
- ・糸永康孝 様
- ・小島弘美 様
- ・河村雄司 様
- ・野村三郎 様 京 様

「ご協力に、心より、
感謝申し上げます。」